

原子力施設見学会

日 時： 平成 18 年12月9日（土）

行き先： 大阪府熊取町 京都大学原子炉実験所

参加者数： 約 40 名

（膳所高校教員大崎校長以下10名、膳所高生徒：27名、シンビオ社会研究会会員3名）

当日スケジュール：

10 時 膳所高校集合、バス出発（貸切）、

12 時頃 京大原子炉実験所に到着

昼食（原子炉実験所内）

13 時～ 原子炉実験所の紹介（ビデオ紹介込み）

13 時 30 分～ 施設見学（ADS 実験の紹介も含む）

研究用原子炉（KUR）：40 分

FFAG 加速器：40 分

臨界実験装置（KUCA）：40 分

15 時 30 分～ 研究紹介「巨大地震災害軽減に向けた取り組み」

16 時頃 実験所を出発

18 時頃 JR 大津駅到着 解散

概 要：

大学の原子力研究施設の現況を、若い世代に実見して貰い、将来の進路選択の参考にしてもらうため、滋賀県立膳所高校に呼びかけ、京大原子炉実験所の釜江先生、中込先生たちの協力を得て行った。京大原子炉実験所には、全国の大学共同利用の研究用原子炉（KUR）、臨界集合体（KUCA）、加速器（FFAG）など大型研究設備がある。中性子や陽子、電子ビームを用いた物理・化学・生物実験などの研究、新しい原子炉の設計研究、さらに脳腫瘍のように切開手術のし難い部位の癌治療などが行われている。文部科学技術省の支援で、FFAGをKUCAとドッキングさせて、世界最初のADS実験*を準備中で、また、原子力発電所の耐震性に関わり、巨大地震災害に備えた研究も行われている。生徒諸君には、学校教育ではあまり教科として触れられることもなく、また、新聞メディアによる否定的な報道から原子力への忌避感もあったようだが、大学でおこなわれている先進的な原子力研究の現場を実見して、原子力への認識を新たにし、興味を抱いたようであり、先生方には教科の構成や教育のあり方についても再考するきっかけにもなったようであった。

熊取見学会の報告記事および膳所高校生徒および教員の感想文

http://sym-bio.jp.org/display_news.php?time=1168167614 参照